

令和5年度 デジタル田園都市国家構想 交付金事業評価シート

○ 目次

- (1) イーストとくしまDMOニューツーリズム推進による新たな事業創出による地域活性化の実現
(徳島東部地域の市町村との共同計画)
- (2) 「しごと」を担い、まちを元気にする「地域活性化人材」創出事業
- (3) 伝統文化と公民連携で推進！SDGs 未来都市とくしま実現事業
- (4) 2つのX(GX・DX)とイノベーション創出による徳島経済飛躍事業(県との共同計画)
- (5) 3つの徳島県・地域連携DMOが協働する観光振興プログラム(県等との共同計画)
- (6) 「グリーン社会とくしま」の実現による持続可能な地域づくり推進事業(県等との共同計画)
- (7) 社会・経済状況の変化に適応する「とくしま農林水産業」生産力強化戦略(県等との共同計画)
- (8) LINEによる行政サービス拡張事業
- (9) スマート農業推進支援事業

デジタル田園都市国家構想交付金 効果検証資料

交付金の区分	No.	交付対象事業の名称 計画期間	事業概要:目的	事業概要: 交付金を充当する事業	総合戦略に おける 位置づけ	検証年度					KPIが達成又は未達成理由 KPIを踏まえた見直し内容	
						交付対象 事業費 (千円)	交付額 (千円)	本交付事業における KPI				
								指標	目標値	実績値		
地方創生 推進タイ プ	1	イーストとくしまDMOニューツーリズム推進による新たな事業創出による地域活性化の実現 (徳島東部地域の市町村との共同計画) (R3.4~R6.3)	イーストとくしまDMOが、「ニューツーリズムの推進」や「シックプライドの醸成」等に取り組み、「訪れてよし」「住んでよし」の観光地域づくりを推進する。	・徳島東部地域DMOと連携した観光地域づくり・観光PRの推進	基本目標3 「徳島市の強みを生かした、にぎわいと活気のあるまち」の実現	R5	13,480	6,740	徳島市の宿泊者数(万人) 【にぎわい交流課】	80	60.7	令和2年度以降は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、国内外の観光需要が減少したことから、観光客が激減したが、令和4年度は、観光需要が徐々に回復し、観光客が増加傾向にあった。しかし、コロナ禍で廃業した宿泊施設もあり延べ宿泊者数は伸び悩み KPI 達成には至っていない。今後は、阿波おどり期間前と冬期の宿泊者数が少ないため、年間を通して本市の魅力発信に努めたい。
									観光コンテンツ造成数(件) 【にぎわい交流課】	12	9	
・KPI 推移												
		指標	事業開始前	R3 上段目標/ 下段実績	R4	R5						
		徳島市の宿泊者数(万人)	67.6 (R1)	80 42.3	80 44.8	80 60.7						
		観光コンテンツ造成数(件)	3 (R2 見込)	3 2	12 7	12 9						
	2	「しごと」を担い、まちを元気にする「地域活性化人材」創出事業 (R4.4~R7.3)	就業・創業促進に取組むとともに、移住促進をはじめとした施策間連携による取組の推進により、地域の「しごと」を担う人材の創出・確保や、多様な人材の交流促進と活躍による地域経済の活性化・まちの活力向上を目指す。	・関係人口の創出・深化 ・移住促進事業(ふるさとワーキングホリデー) ・共創のまちづくり推進事業 ・創業促進事業 ・阿波女あきんど塾出張講座 ・女性・若者活躍推進支援事業 ・市高生次世代プロデュース事業	基本目標1 「誰もが希望を持ち、安心して働くことができるまち」の実現 基本目標3 「徳島市の強みを生かした、にぎわいと活気のあるまち」の実現	R5	12,837	6,418	本事業を通じた、徳島市内における新規就業・創業者数(人) 【経済政策課】	20	23	KPIを達成しており、産業競争力強化法に基づく創業支援等事業計画書の実施にあたり、市町村が実施する創業支援等事業として計画している事業であること、また、地域における創業者を支援し、開業率の向上を目指し、地域の活性化、雇用の確保を目指すため、継続する。
									本事業を通じた、徳島市への移住者数及び徳島市の関係人口数(人) 【企画政策課】	20	21	
・KPI 推移												
		指標	事業開始前	R4 上段目標/ 下段実績	R5	R6						
		本事業を通じた、徳島市内における新規就業・創業者数(人)	0	15 25	20 23	25						
		本事業を通じた、徳島市への移住者数及び徳島市の関係人口数(人)	3	15 15	20 21	25						
		本事業を通じ、新たな事業やコミュニティビジネスを実施した人数(人)	0	3 8	5 5	7						
		本事業を通じ、新たな事業やコミュニティビジネスを実施した人数(人) 【市民協働課】					5	5	初年度に新たな事業やコミュニティビジネスを実施したメンバーを中心に、新しいメンバーを巻き込みながら活動を継続した結果、目標通りの数値を達成することができた。			

交付金の区分	No.	交付対象事業の名称	事業概要:目的	事業概要: 交付金を充当する事業	総合戦略における位置づけ	検証年度					KPIが達成又は未達成理由 KPIを踏まえた見直し内容	
						交付対象事業費 (千円)	交付額 (千円)	本交付事業における KPI				
								指標	目標値	実績値		
地方創生 推進タイ プ	3	伝統文化と公民連携で推 進！SDGs 未来都市とくしま 実現事業 (R5.4~R8.3)	SDGs を推進する様々な取組と、 「阿波おどり」を組み合わせ、先 駆的・実験的な取組を多様な主 体と積極的に推進することで、 経済・社会・環境の三側面に好循 環をもたらすモデル事業を生み 出すとともに地域の活性化を図 る。	・SDGs 推進事業 ・阿波おどり「絆」強化事業 ・阿波おどり文化継承事業 ・阿波おどりの振興 ・SOGIE 啓発推進事業	基本目標3 「徳島市の強 みを生かし た、にぎわいと活気のある まち」の実現 基本目標4 「誰もが活躍 でき安心して 暮らせる、持 続可能で安全 なまち」の実 現	R5	15,827	7,913	地域の伝統文 化の持続可能 性に貢献する 市民の数(人) 【にぎわい交流課】	180	197	荒天により2023阿波おどりは2日間開催と なったものの、新型コロナウイルス感染症 が5類感染症に移行したことに伴い、制限 のない開催となったため一定数のボラン ティアの方々の協力を得られたため KPI は達 成した。
									SDGs 推進に係 る公民連携事 業等に協賛す る企業・団体 数(団体) 【にぎわい交流課】	13	14	
・KPI 推移												
		指標	事業開始前	R5 上段目標/ 下段実績	R6	R7						
		地域の伝統文化の持続可能性に貢献する市民の数(人)	160	180 197	200	220						
		SDGs 推進に係る公民連携事業等に協賛する企業・団体数(団体)	11	13 14	15	17						
		経済・社会・環境の三側面に好循環をもたらす公民連携モデル事業の実施数(件)	0	1 1	2	4						
	4	2つのX(GX・DX)とイ ノベーション創出による徳 島経済飛躍事業 (県との共同計画) (R4.4~R7.3)	県と連携して、事業者へのデジ タル技術を活用した販路開拓支 援等に取り組む。	・中小企業販路拡大支援事業 ・EC 参入支援事業	基本目標1 「誰もが希望 を持ち、安心 して働くこと ができるま ち」の実現	R5	12,308	6,153	「販路拡大に 効果があっ た」と回答した 事業者の割 合(%) 【経済政策課】	90	100	本市の中小企業の多くは、経営が脆弱な為、 売上げの最大化やコストの最小化に対して 十分な経営資源を投下することが困難であ るため、売上げの拡大等に対する取組を補 助することにより、効果が得られた。今後 も、さらなる広報活動を行い、事業者に活用 を促していく。
									本事業による 支援件数(件) 【経済政策課】	102	58	
・KPI 推移												
		指標	事業開始前	R4 上段目標/ 下段実績	R5	R6						
		「販路拡大に効果があった」と回答した事業者の割合(%)	92 (R2)	90 100	90	90						
		本事業による支援件数(件)	— (R2)	66 45	102	138						

交付金の区分	No.	交付対象事業の名称	事業概要:目的	事業概要: 交付金を充当する事業	総合戦略における位置づけ	検証年度					KPIが達成又は未達成理由 KPIを踏まえた見直し内容													
						交付対象 事業費 (千円)	交付額 (千円)	本交付事業における KPI																
								指標	目標値	実績値														
地方創生 推進タイ プ	5	3つの徳島県・地域連携DMOが協働する観光振興プログラム（県等との共同計画） (R4.4~R7.3)	県等と連携して、本市の魅力発信やプロモーション等に取り組む。	・水都・とくしま魅力発信事業	基本目標3 「徳島市の強みを生かした、にぎわいと活気のあるまち」の実現	R5	1,196	598	徳島市公式観光ウェブサイトページビュー数（万件） 【にぎわい交流課】	50	69.4	徳島市公式観光サイト「Fun!Fun!とくしま」内での体験型特集記事の充実や、観光キャンペーン等で同サイトのPRを積極的に行ったこともありアクセス件数は計画を大きく上回る実績値となっており KPI を達成した。本事業は、本市のイメージアップとブランドイメージの創出を図る上で、効果が十分に期待できる事業である。そのため引き続き、関西大阪万博やインバウンドを見据え、本市への来訪意識の喚起を図るため、本市の様々な観光資源の魅力を国内外へ発信していく。												
													・KPI 推移 <table border="1"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>事業開始前</th> <th>R4 上段目標/ 下段実績</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">徳島市公式観光ウェブサイトページビュー数（万件）</td> <td rowspan="2">18.7 (R2)</td> <td>30</td> <td>50</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>48.1</td> <td>69.4</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					指標	事業開始前	R4 上段目標/ 下段実績	R5	R6	徳島市公式観光ウェブサイトページビュー数（万件）	18.7 (R2)
指標	事業開始前	R4 上段目標/ 下段実績	R5	R6																				
徳島市公式観光ウェブサイトページビュー数（万件）	18.7 (R2)	30	50	55																				
		48.1	69.4																					
	6	「グリーン社会とくしま」の実現によるサステナブルな地域づくり推進事業（県等との共同計画） (R4.4~R9.3)	県等と連携して、SDGs 実現の重点地域として、脱炭素等に向けた積極的な情報発信等を行う。	・SDGs 普及啓発事業	基本目標4 「誰もが活躍でき安心して暮らせる、持続可能で安全なまち」の実現	R5	880	440	市民のSDGs認知度（%） 【企画政策課】	69	70.3	民間企業との連携による「ひょうたん島周遊船」の電動化に向けて、実証実験を行い、脱炭素を含めたSDGsの取り組みについて積極的な情報発信に努めた。今後も公民連携によるモデル事業の実施を通して、SDGs 未来都市の実現を推進し、脱炭素等に向けたさらなる情報発信を行っていく。												
													・KPI 推移 <table border="1"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>事業開始前</th> <th>R4 上段目標/ 下段実績</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">市民のSDGs認知度（%）</td> <td rowspan="3">—</td> <td>調査準備</td> <td>69</td> </tr> <tr> <td>66.4</td> <td>70.3</td> </tr> <tr> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> </tr> <tr> <td>70</td> <td>71</td> <td>72</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					指標	事業開始前	R4 上段目標/ 下段実績	R5	市民のSDGs認知度（%）	—	調査準備
指標	事業開始前	R4 上段目標/ 下段実績	R5																					
市民のSDGs認知度（%）	—	調査準備	69																					
		66.4	70.3																					
		R6	R7	R8																				
70	71	72																						

交付金の区分	No.	交付対象事業の名称	事業概要:目的	事業概要: 交付金を充当する事業	総合戦略における位置づけ	検証年度					KPIが達成又は未達成理由 KPIを踏まえた見直し内容															
						交付対象事業費 (千円)	交付額 (千円)	本交付事業における KPI																		
								指標	目標値	実績値																
地方創生 推進タイプ	7	社会・経済状況の変化に適應する「とくしま農林水産業」生産力強化戦略(県等との共同計画)(R3.4~R8.3)	県等と連携して、農林漁業者の6次産業化による商品開発及び販路開拓支援に取り組む。	・農工商連携等支援事業	基本目標1 「誰もが希望を持ち、安心して働くことができるまち」の実現	R5	1,000	500	本事業により開発した商品数(件)※累計【農林水産課】	12	12	積極的な広報活動により、いちごの生産者との商品開発を実現できた。市場の規格外となってしまう農産物の使用によりSDGsに取り組むとともに、農業者の販路開拓に貢献した。県等と連携し、今後も生産力強化に努める。														
													・KPI 推移 <table border="1"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>事業開始前</th> <th>R4 上段目標/ 下段実績</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">本事業により開発した商品数(件)※累計</td> <td rowspan="2">9(R2)</td> <td>11</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td></td> <td>R6</td> <td>R7</td> <td>R8</td> </tr> <tr> <td></td> <td>13</td> <td>14</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※徳島市はR4から参加					指標	事業開始前	R4 上段目標/ 下段実績	R5	本事業により開発した商品数(件)※累計	9(R2)	11	12	11
指標	事業開始前	R4 上段目標/ 下段実績	R5																							
本事業により開発した商品数(件)※累計	9(R2)	11	12																							
		11	12																							
	R6	R7	R8																							
	13	14	15																							
デジタル 実装タイプ	8	LINEによる行政サービス拡張事業(R5.4~R8.3)	LINE公式アカウントの機能を拡張し、市政情報のセグメント配信機能及びFAQチャットボット機能を導入するとともに、災害情報の即時通知などの防災機能を強化する。	・LINE活用事業	基本目標4 「誰もが活躍でき安心して暮らせる、持続可能で安全なまち」の実現	R5	328	164	公式アカウントおともだち数(回/月)【広報広聴課】	21,000	21,995	LINE公式アカウントの機能拡張に合わせて、広報紙や市公式HPへの掲載、SNS投稿、ポスター掲示、チラシの配布等の広報活動を積極的に行った。														
									セグメント配信の回数(回)【広報広聴課】	20	203	月間の投稿計画をたて、利用者が必要としている情報を計画的に配信した。														
									チャットボット利用回数(回)【広報広聴課】	10	8,108	「マイナンバー」「引越越し」「健康」情報のチャットボットサービスを開始し、利用者の利便性が向上した。														
									災害情報発信回数(回)【防災対策課】	10	8	台風や津波による災害の発生が予測される段階で災害情報を発信した。														
									市民からの災害情報投稿件数(回/年)【防災対策課】	4	0	当初、運用へ向けて検討を進めていたが、災害対応時における市民からの災害投稿情報についての正誤判断に課題を残すことから、実装については見送っている状況。※ 開発段階において機能としては実装済														
									徳島市公式LINEアカウントの満足度(ポイント(10段階評価))【広報広聴課】	5.0	6.1	LINE公式アカウントの機能拡張したサービスを中心に効果的な情報発信に努めた。引き続き、安定した運用を行うとともに、サービスの改善を図っていく。														
									指標	事業開始前	R5 上段目標/ 下段実績	R6	R7													
									公式アカウントおともだち数(回)	19,928	21,000 21,995	22,000	23,000													
									セグメント配信の回数(回)	0	20 203	25	30													
									チャットボット利用回数(回)	0	10 8,108	15	20													
災害情報発信回数(回)	0	10 8	12	14																						
市民からの災害情報投稿件数(回)	0	4 0	5	6																						
徳島市公式LINEアカウントの満足度(ポイント(10段階評価))	—	5.0 6.1	5.5	6.0																						

交付金の区分	No.	交付対象事業の名称	事業概要:目的	事業概要: 交付金を充当する事業	総合戦略における 位置づけ	検証年度					KPIが達成又は未達成理由 KPIを踏まえた見直し内容				
						交付対象 事業費 (千円)	交付額 (千円)	本交付事業における KPI							
								指標	目標値	実績値					
デジタル 実装タイ プ	9	スマート農業推進支援事業 (R5.4~R8.3)	スマート農業機器の貸出しによる効果確認や研修会を開催し、農業分野における「先端技術」実装に対する機運の醸成を図り、農業現場の労働力確保や負担軽減などの課題を解消する。	・スマート農業推進支援事業	基本目標1 「誰もが希望を持ち、安心して働くことができるまち」の実現	R5	662	331	機器の貸出件数(件) 【農林水産課】	10	4	機器導入後、8月から広報、貸し出し募集を行ったが、利用対象者への周知が不十分だったことが影響していると考えられる。今後は、早い時期に様々な媒体で広報を行い、多くの方にスマート農業機器を利用してもらえるよう努める。			
									研修会参加者数(人) 【農林水産課】	20	15		目標値には至らなかったが、前年度との比較では参加者は倍増した。今後は、会議等様々な機会を捉えて多くの方に声がけすることにより、参加者を増やし、スマート農業の推進に努める。		
									貸出機器利用者数の満足度(ポイント【5段階評価】) 【農林水産課】	3.0	2.5		利用者の中には、機器の重さ自体が負担になったとの意見があった。今後は、このような意見も業者に伝えつつ、相談し、利用者満足度の向上に努める。		
									研修会参加者の満足度(ポイント【5段階評価】) 【農林水産課】	3.0	3.2		研修会では、講師と参加者との間で質疑応答が活発に行われ、スマート農業機器に対する理解が深まったことが満足度に反映されたと思われる。引き続き研修会を実施し、スマート農業の推進を支援する。		
									指標		事業開始前		R5 上段目標/ 下段実績	R6	R7
									機器の貸出件数(人)	0	10		4	15	20
									研修会参加者数(人)	0	20		15	25	30
									貸出機器利用者数の満足度(ポイント【5段階評価】)	—	3.0		2.5	3.5	4.0
									研修会参加者の満足度(ポイント【5段階評価】)	—	3.0		3.2	3.5	4.0

(参考)交付金事業を構成する事業

交付金事業 No.	事業名(担当課)	事業費 (単位 千円)	事業目標			効果検証
	事業概要		前回値 (年度)	実績値 (R5)	目標値 (R5)	
イーストとくしまDMOニューツーリズム推進による新たな事業創出による地域活性化の実現(徳島東部地域の市町村との共同計画)(R3.4~R6.3)						
1	徳島東部地域 DMO と連携した観光地域づくり・観光 PR の推進 (にぎわい交流課)	11,350	観光コンテンツ造成数			令和5年は、訪日客数がコロナ禍前の2019年の8割まで回復し、観光消費額は過去最高となる5兆円を超え、インバウンドが本格的に復活する年となった。大坂・関西万博の開催も間近に控え、DMOを中心に広域的・効果的なプロモーションに取り組むとともに、観光DXによる地域一体となったデジタルマーケティングや宿泊・観光施設の再生・高付加価値化を促進し、徳島東部圏域への誘客促進に繋げ、観光消費額の更なる拡大を図っていく必要がある。
	徳島東部地域 DMO と連携して広域的な観光地域づくりを推進し、観光資源の造成・磨き上げを行うほか、戦略的な観光 PR を展開することにより、観光誘客数や交流人口の増加を図ります。		7 (R4)	9 (R5)	12	
「しごと」を担い、まちを元気にする「地域活性化人材」創出事業(R4.4~R7.4)						
2	関係人口の創出・深化 (企画政策課)	1,749	本事業による関係人口創出数 (人) ※累計			ふるさと納税「ふるさとサポーター連」や「阿波おどり公式アンバサダー」の募集により関係人口を増やしてきた。令和4年度から移住交流支援センター公式 LINE を開設し、よりわかりやすい情報発信を行い、関係人口の創出・深化に努めた。
	本市への寄附や移住関心層の拡大、伝統文化を通じた地域の新たな担い手づくりに向け、地域資源を活用して、本市に関わりを持つきっかけづくりや魅力発信に取り組み、関係人口の創出等を図ります。		557 (R4)	1,036 (R5)	300	
	移住促進事業 (企画政策課)	14,377	本事業による移住者数(人) ※累計			移住交流支援センターでのよりきめ細かな相談対応や移住者交流会の開催、リニューアルした移住サイト・各種 SNS を利用した情報発信を行い、移住先としての本市の魅力を発信した。移住体験ツアーは初めて実地で開催し、ふるさとワーキングホリデーとともに定員を上回る応募で人気が高く、実際に徳島市に移住した人もいる。
	移住先としての魅力発信(移住ポータルサイト等)、ふるさとワーキングホリデーなどの移住支援策を推進するとともに、移住交流支援センターを民間委託により運営し、きめ細やかな対応を実施することで移住促進を図ります。		17 (R4)	36 (R5)	24	
	共創のまちづくり推進事業 (市民協働課)	252	新たな事業やコミュニティビジネスを実施した人数(人)			令和5年度は民間プレイヤーと市職員による公民連携協議会を設置し、公・民連携の共創プロジェクトの創出に取組んだ。また、令和4年度に実施した「ソーシャルビジネスチャレンジ」から生まれた取組を、継続的に支援していくことにより、新たに5人の人材が自ら企画した社会課題の解決に資する事業を実施した。
	まちづくり協働プラザをオープンインベーションの場として活用し、公・民・学が連携して社会課題を解決する新たな事業を共創するとともに、まちづくりに参画する人材の育成を図ります。		8 (R4)	5 (R5)	5	
	創業促進事業 (経済政策課)	9,225	創業支援を受けた者のうち創業者数(人)			新型コロナウイルス感染の拡大を受け、各種セミナーの実施回数を減らした後、休止のままのセミナーがある等、年間の創業支援者数が減少していることから、目標を達成できなかった。今後は、セミナー等の周知等により取り組み、創業支援者数を増やし、創業者の増加を進める。
	創業支援等事業者(商工団体、金融機関等)と連携し、創業支援相談会やセミナー等の実施及び学生等を対象とした、ビジネスプランコンテスト等による創業の機運醸成に取り組むとともに、創業予定者等の事業者等を対象に、創業に要する経費、または、事業の発展に要する経費の一部を補助します。		38 (R4)	32 (R5)	65	
	阿波女あきんど塾出張講座 (経済政策課)	20	阿波女あきんど塾出張講座の受講者数(人)			高校生を対象とした講座では、54%の生徒が創業(起業)に関心を持ち、大学生を対象とした講座では、81%の学生が創業(起業)に関心を持つ結果となった。進学者が多くを占める高校生に対して、就職や起業を控えた大学生から、より創業(起業)に対する関心を持ってもらうことができた。
	本市を拠点に活躍する女性経営者で構成する「阿波女あきんど塾」のキャストを講師として、創業予備軍である高校生や大学生を対象とした出張講座を実施します。起業体験や仕事に対する考え、働くことの意義、楽しさを伝え、将来のキャリアへの可能性の探求、勤労観や創業意識の醸成を図ります。		430 (R4)	394 (R5)	380	
女性・若者活躍推進支援事業 (経済政策課)	900	セミナー等参加者の就職者数(人)			令和5年度のスキルアップセミナーは、コロナ禍による行動制限が緩和された中での開催となり、参加者は昨年度より7人増加した上で、さらに内容的にも充実したセミナーを開催することができた。また、講座受講生を徳島県と関係団体が主催するマッチングフェアへ案内し、新たに就職が決定又は内定した人は3人となり、残りの受講生も現在も積極的に就職活動をしていることから、あらためて、当該事業の効果を実感した。	
女性や若者が活躍できる環境づくりの推進に取り組みます。女性や若者がその個性と能力を十分に発揮し、仕事をしていくために必要なスキルを身につけるセミナーを開催し、それぞれのライフステージに合った多様な働き方について考える機会を提供します。また、徳島公共職業安定所と連携し、子育て中の女性や若者等を対象とした就職面接会を開催し、就労へとつなげます。		52 (R4)	55 (R5)	45		

交付金 事業 No.	事業名(担当課)	事業費 (単位 千円)	事業目標			効果検証
	事業概要		前回値 (年度)	実績値 (R5)	目標値 (R5)	
	市高生次世代プロデュース事業 (徳島市立高等学校)	408	講座開催数(回)			本事業は、デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)を活用したものである。本年度は、新型コロナウイルス感染症が5類へ移行されたことから、対面開催として実施した。支出自体は減少しているが、支出を工夫して事業の開催したものであり、進捗状況を概ね順調とした。令和6年度で国庫補助事業が終了するため、市高の基本方針を踏まえ、今後の事業展開について検討していく必要がある。
	市高生による次世代の徳島市を担う人材の育成を図ることを目的とした事業で、徳島の歴史・文化・産業等についてのさまざまな体験(県内の大学・企業・団体等との交流)を通して、まず地元徳島を知ることを試み、そこから地域創生へつなげようとする。		7 (R4)	11 (R5)	12	

伝統文化と公民連携で推進！SDGs 未来都市とくしま実現事業(R5.4～R8.3)

3	SDGs 推進事業 (企画政策課)	4,513	①包括連携協定による公民連携事業数(事業) ②経済・社会・環境の三側面に好循環をもたらす公民連携モデル事業の実施件数(件) ※累計 ③市民のSDGs認知度(%)			①今年度は新たに3社と包括連携協定を締結し、協定に基づく連携事業数は目標値を上回った。今後も企業等との連携事業について、取り組み内容の拡充・新規連携事業の実施を進めるなど本市の課題解決や市民サービスの一層の向上を図っていく。 ②「支える阿波プロジェクト」は新聞等にも取り上げられ、公民連携の取り組みについて市民にアピールすることができた。 ③令和5年11月を「SDGs未来都市・徳島市」の強化月間とし、プロモーショングッズの掲出やイベントを開催するなどの取り組みを実施し、普及・啓発に務めた。
	ひょうたん島エリアをモデル地区とした徳島市 SDGs 未来都市計画に基づき、プロモーション事業の展開や、ダイバーシティと民間活力を原動力として産官学それぞれの強みを生かした公民連携事業を拡大することでSDGsの普及啓発を図るとともに、経済・社会・環境の三側面の好循環をもたらす先駆性のある公民連携モデル事業を実施し、SDGs未来都市の実現を推進します。		133 (R4)	165 (R5)	120	
			— (R4)	1 (R5)	1	
			66.4 (R4)	70.3 (R5)	69	
	阿波おどり「絆」強化事業 (にぎわい交流課)	11,689	阿波おどり公式アンバサダー登録者数(人)			徳島市阿波おどり公式アンバサダー登録数は着実に増加しており、アンバサダーの協力による阿波おどり写真展開催や SNS での魅力発信、オフ会の開催等、アンバサダーとより強い協力体制を築き、阿波おどりの振興に繋げることができた。その成果として、アンバサダー登録者数は着実に増加しており、また公式インスタグラムのフォロワー数は昨年度の2倍以上(2,250人→5,012人)の人数となった。
	2025大阪・関西万博等を見据え、全国の阿波おどり公式アンバサダーと連携し、企画展の開催やSNS等での情報発信を行い、阿波おどりの魅力を国内外に広く発信します。		— (R4)	354 (R5)	—	
	阿波おどり文化継承事業 (にぎわい交流課)	2,160	アウトリーチ受講者数(人)			新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことに伴い、アウトリーチ事業への参加応募校数は増加してきている。また、1度実施した学校からは毎年の応募があるため、学校側のニーズにも応えられていると考える。
	市内小学生を対象に、阿波おどり育成出前講座を実施し、体験や講座を通じて将来の担い手づくりに取り組むアウトリーチを実施するとともに、県内外の阿波おどりファン等が本場徳島での阿波おどりを体験することにより、阿波おどりの魅力を発信します。		652 (R4)	1,242 (R5)	700	
	阿波おどりの振興 (にぎわい交流課)	11,689	阿波おどりの人出(万人)			荒天により2023阿波おどりは3日間の開催、また「ダイバーシティとくしま連」の実施も見合わせたことから人出数は伸び悩んだ。しかし、徳島市阿波おどり公式アンバサダー登録数は着実に増加しており、アンバサダーの協力による阿波おどり写真展開催や SNS での魅力発信、オフ会の開催等、アンバサダーとより強い協力体制を築き、阿波おどりの振興に繋げることができた。その成果として、公式インスタグラムのフォロワー数は昨年度の2倍以上(2,250人→5,012人)の人数となった。
	新たな運営体制のもと実施される徳島市阿波おどりの持続可能な運営に対して支援を行うとともに、阿波おどりに関するホームページ等を作成し、徳島市阿波おどり公式アンバサダー(個人・法人)と連携した取組を推進するなど、市内外の阿波おどりファン等が阿波おどりを安心して楽しめる環境づくりに取り組みます。また、プロモーションビデオ等を活用した阿波おどりの魅力発信を行うことにより、国内外からの誘客と阿波おどりのさらなる振興を図ります。さらに、阿波おどりの経済波及効果を検証し、本市最大の観光資源である阿波おどりをより効果的に活かしていく材料とします。		46 (R4)	54 (R5)	110	
	SOGIE 啓発推進事業 (人権推進課)	533	電話相談窓口の実施			本事業は、性の多様性の理解を進めるとともに、悩んでいる全ての人に対し電話相談窓口を設置、毎月1回1件以上の電話相談がある。SNSの登録数を増やすためチラシ等の配布により周知につとめる。
	SDGs 実現の鍵となる「ダイバーシティ社会の実現」に向けて、SOGIE(性的指向・性自認・性表現)に関する電話相談窓口を設置するとともに、SNS を活用した広報等の啓発活動を推進します。		— (R4)	開設 (R5)	開設	

交付金 事業 No.	事業名(担当課)	事業費 (単位 千円)	事業目標			効果検証
	事業概要		前回値 (年度)	実績値 (R5)	目標値 (R5)	
2つのX(GX・DX)とイノベーション創出による徳島経済飛躍事業(県との共同計画)(R4.4~R7.4)						
4	中小企業販路拡大支援事業 (経済政策課)	12,399	「販路拡大に効果があった」と 回答した事業者の割合(%)			本市の中小企業の多くは、経営が脆弱な為、売上げの最大化や コストの最小化に対して十分な経営資源を投下することが困難 であるため、売上げの拡大等に対する取組を補助することによ り、効果が得られた。今後も、さらなる広報活動を行い、事業者 に活用を促していく。
	中小企業の首都圏・海外への販路拡大に向けた取り組 みを支援するため、補助制度等を設けるとともに、専門 家派遣を実施します。		100 (R4)	100 (R5)	90	
	EC参入支援事業 (経済政策課)	2,310	本事業による支援件数(件)※ 累計			事業開始から3年目となり、KPIの達成率は5割強であった。 未達成の要因として広報活動が効果薄となったことが考えられ る。しかし補助金を活用した業者は多岐にわたり、中には新型コ ロナウイルス感染症の影響から抜けだせず本業が芳しくない為、 本補助金を活用し新たな業種へ参入した事業者も見受けられ た。
	ECビジネスに参入し、販路拡大を行おうとする中小企 業者に対し、必要な経費を補助することにより、新規需 要の掘り起こしと収益の改善を図ります。		45 (R4)	58 (R5)	102	
3つの徳島県・地域連携DMOが協働する観光振興プログラム(県等との共同計画)(R4.4~R7.4)						
5	水都・とくしま魅力発信事業 (にぎわい交流課)	1,943	徳島市公式観光ウェブサイトペ ージビュー数(件)			徳島市公式観光サイト「Fun!Fun!とくしま」内での体験型特集 記事の充実や、観光キャンペーン等で同サイトのPRを積極的 に行ったこともありアクセス件数は計画を大きく上回る実績値とな っており、効果的な情報発信につながっていると考える。今後、 これらの情報発信を観光客誘致に確実につなげていく必要性が ある。
	交流人口の増加による地域の活性化や、市民の愛着度 の向上を目指して、阿波おどりや豊かな水辺環境、文 化、歴史など、本市の地域資源の魅力を市内外に発信 します。		481,558 (R4)	694,479 (R5)	500,000	
「グリーン社会とくしま」の実現によるサステナブルな地域づくり推進事業(県等との共同計画)(R4.4~R7.4)						
6	SDGs推進事業 (企画政策課)	4,513	①包括連携協定による公民連 携事業数(事業) ②経済・社会・環境の三側面に 好循環をもたらす公民連携 モデル事業の実施件数(件) ※累計 ③市民のSDGs認知度(%)			①今年度は新たに3社と包括連携協定を締結し、協定に基づく 連携事業数は目標値を上回った。今後も企業等との連携事業 について、取り組み内容の拡充・新規連携事業の実施を進める など本市の課題解決や市民サービスの一層の向上を図ってい く。 ②「支える阿呆プロジェクト」は新聞等にも取り上げられ、公民連 携の取り組みについて市民にアピールすることができた。 ③令和5年11月を「SDGs未来都市・徳島市」の強化月間とし、 プロモーショングッズの掲出やイベントを開催するなどの取り 組みを実施し、普及・啓発に務めた。
	ひょうたん島エリアをモデル地区とした徳島市 SDGs 未来都市計画に基づき、プロモーション事業等やダイバ シティと民間活力を原動力とした公民連携モデル事 業の実施を行い、SDGsの浸透・普及に取り組むととも に、経済・社会・環境の三側面の好循環をもたらす SDGs未来都市の実現を推進します。		133 (R4)	165 (R5)	120	
			— (R4)	1 (R5)	1	
			66.4 (R4)	70.3 (R5)	69	
社会・経済状況の変化に適応する「とくしま農林水産業」生産力強化戦略(県等との共同計画)(R4.4~R7.4)						
7	農商工連携等支援事業 (農林水産課)	1,132	農商工連携により開発した商品 数(商品)※累計			本事業は県が事務局を担う、とくしま6次産業化推進連携協議会 と協働し、国のデジタル田園都市国家構想交付金を活用して行 っている事業である。 KPIとして設定している新商品の開発補助について、事業を活 用したのは1件で、事業開始からの累計は12件となり、目標を達 成した。
	6次産業化に意欲ある生産者や商工業者等への支援を 行い、地域資源を活用した高付加価値商品の開発・販 路開拓を支援することにより、地域資源を軸とした地域 産業の活性化を目指します。		11 (R4)	12 (R5)	12	
LINEによる行政サービス拡張事業(R5.4~R8.3)						
8	LINE活用事業 (広報広聴課)	328	公式アカウントおともだち数 (人)			・セグメント配信…利用者がセグメント項目からほしい情報だけ を選択、受信できるようになり、より効果的な情報発信が可能と なった。 ・FAQチャットボット…「マイナンバー」「引越越し」「健康」情報の チャットボットサービスを開始し、利用者の利便性が向上した。 ・防災機能…ハザードマップ検索、避難所・避難場所検索、防災チ ャットボットなどの防災メニューを実装した。
	スマートフォンユーザーの8割以上が利用している LINEで運用している公式アカウントに実装したセグメ ント配信、FAQチャットボット、防災機能を安定的に運 用し、行政サービスの向上を図ります。		— (R4)	21,995 (R5)	21,000	

交付金 事業 No.	事業名(担当課)	事業費 (単位 千円)	事業目標			効果検証
	事業概要		前回値 (年度)	実績値 (R5)	目標値 (R5)	
スマート農業推進支援事業(R5.4~R8.3)						
9	スマート農業推進支援事業 (農林水産課)	662	研修会の参加者数(人)			スマート農業機器の調達事務の都合上、研修会参加募集開始時期が8月後半となったことから目標人数に達しなかったが、研修参加者には機器の使用方法やメリット等を理解してもらうことができた。農業者等へ市で購入したスマート農業機器の貸し出しを行った。
	農業分野における熟練者の知識や労働力の不足を補う「スマート農業」の実装に対する機運の醸成を図ります。		8 (R4)	15 (R5)	20	

デジタル田園都市国家構想交付金事業の事前評価・意見

No.1	事業の名称	イーストとくしまDMOニューツーリズム推進による新たな事業創出による地域活性化の実現 (徳島東部地域の市町村との共同計画)
評 価		意 見
B	KPI達成には至っていないが、コロナ感染症の影響を受けてのことであり、それでも令和5年度は実績が伸びており、特に宿泊者数では今後に期待が持てる。	
B	KPIはいずれも目標には届いていないが、宿泊者数・観光コンテンツ造成数ともに年々増加している点は評価したい。ただ、「阿波おどり」という有名かつ大きなコンテンツがあるがゆえに、新しくシティブランドの核となるコンテンツが誕生しにくい状況ともいえる。来年の万博を観光活性化の起爆剤として活用できるよう、今後のシティドレッシング等での気運醸成を期待したい。	
B	本事業KPIの実績値は伸び悩んでいるものの、事業開始時点から令和5年に至るまで宿泊者数・観光コンテンツ造成数は増加傾向で推移し、県下観光の回復が見受けられる。また観光コンテンツ造成については、2025年に徳島とアクセスのよい大阪にて万博が開催される予定であり、外国人観光客の誘致など今後の盛り上がり期待される。観光客やコンパニョンの有無が、県内の飲食・ホテルなどの業況にも影響を及ぼしており、既存企業にも重要な取り組みであると思われる。	
B	いずれのKPIも実績値が目標値に届いていない。新型コロナウイルス感染症による各方面への影響が推察される。総合的にみてB評価とした。なお、2025 大阪・関西万博は一過性のものであり、中長期的視野による観光政策の展開が求められる。	
B	本事業のKPIは、目標達成まではいかないまでも、宿泊者数においても、観光コンテンツ造成数においても、3年間少しずつ増加している。コロナ禍も落ち着き、来年は大阪・関西万博の開催も予定されているので、観光客増加に向けて早急に対策を行ってほしい。	
B	目標値には届いていないが、コロナ明けの令和5年度の実績は確実に上がっている(1.35倍)。ただし事業の効果ではなく、コロナの反動の影響が大きいとも考えられる。例えば他の地方都市(高松市、松山市、高知市)の宿泊客数の増減率と比較することで事業の効果を正しく評価できるのではないかと考える。	
B	本取組のKPIは、新型コロナウイルス感染症の影響もあり実績値が伸び悩み最終年度までに達成できるかどうか分からない状況にあるものの、昨年度は、数値が伸び、取組自体は着実に推進できているため、KPI達成に一定程度有効であったと考えられる。ただ、阿波おどり以外の観光資源のアピールが特に徳島市については少ないと感じられる。旅行先として選ばれるには、もう少し各コンテンツの掘り下げが必要ではないかと考える。	
B	これだけでは効果が薄く、DMO同士の連携で、祖谷、美馬、鳴門、徳島、日和佐といった回遊型の観光をするための「足」の改善など、県内全体の観光コンテンツの連携を強めるべきではないかと考える。	

デジタル田園都市国家構想交付金事業の事前評価・意見

No.2	事業の名称	「しごと」を担い、まちを元気にする「地域活性化人材」創出事業
評 価		意 見
A	令和4年から目標を少しずつ上げているが、その目標に対してKPIを達成しており実績が上がっている。令和6年も更に推進していった欲しい。	
A	KPIは達成できており、一定の成果を上げたと考える。特に「ふるさとワーキングホリデー事業」については注目度も高く、関係人口創出の要因となっている。観光とワーク体験のメニュー充実のために、ワークを提供頂ける事業者との連携支援を強めて頂きたい。	
A	本事業のKPIは目標値を上回って推移している。また、各指標は事業開始前と比較して向上しており、本事業はKPI達成に有効であったと思われる。取組は全体的に順調に推移しており、関係人口の増加・若年層に対するアプローチなど徳島においても課題である人口減少への対策とも重なる。一方で、創業促進事業においては、他の取組と比較するとKPIが低調で、休止中のセミナーの再開や創業支援者の拡充などの対応により、よりよい効果が求められると考える。	
A	いずれのKPIも、実績値が目標値に達しておりA評価とした。	
A	本事業のKPIは、目標達成ができています。今後も就業・創業促進に取り組んでいただきたい。女性や若者が活躍するためには、多様な働き方ができる職場環境の推進にも力を入れていただきたい。また、アクティブシニアが活躍できる仕事づくりも推進していただきたい。	
A	どのKPIも目標を達成している。	
A	本事業のKPIは、全体的に目標値を上回って達成できており、取組の成果がでていることが見受けられ、KPI達成に有効であったと言える。取組は全体的に順調に進捗しており、特に新規就業・創業者数は毎年目標を上回り、交付金事業の目的に合致した事業であると考えられる。今後は点としての成果を、面として市の活性化が感じられるように広げていただきたい。	
B	あくまで「私見」であるが、居住人口をKPIにする「時期」は終わったように思う。関係人口の確保の政策を強く推進すべきである。	

デジタル田園都市国家構想交付金事業の事前評価・意見

No.3	事業の名称	伝統文化と公民連携で推進！SDGs未来都市とくしま実現事業
評価		意見
A	SDGsと阿波おどりの組み合わせにおいてもKPIが達成できており一定の成果を上げていると考えられる。令和6年度の阿波おどりが4日間開催された時の値に期待したい。	
A	KPIは達成できているものの、指標の「表現」が曖昧である。例えば、「地域の伝統文化の持続可能性に貢献する市民」は、ボランティアの数だけではない。阿波おどりの視点から地域の持続可能性を考えることは大切だが、それを量的測定することは難しい。同様に「経済・社会・環境の三側面に好循環をもたらすモデル事業」という表現も包含する意味はとても広く、これが学生ボランティアチームの清掃活動のみを指すのだとすると、事業名はもう少し具体性がある方が望ましい。	
A	本事業のKPIは目標値以上の実績値となっている。各指標とも事業開始年度のKPIは順調なスタートである。また各取組は、伝統文化である阿波おどりの振興とダイバーシティ推進を目的とし、効果がみられている。特にSOGIE啓発推進事業において電話相談窓口の設置は、性の悩みなど身近な人には相談しにくいとの声もあると思われるので、とても有用であると感じる。また今年の阿波おどりの振興事業については、5日間の開催や連での踊りの実施など、人出のにぎわいが期待される。	
A	いずれのKPIも、実績値が目標値に達しておりA評価とした。	
A	どのKPIも目標を達成している。	
A	阿波踊りは徳島市民の財産であるため、ボランティアなどの市民の協力も目標を上回り、KPIが達成できた。この先人からの大きな遺産を有効活用していくことが、徳島市の活性化の大きな柱の1つとなると思う。行政と市民が、阿波踊りのスムーズな運営に足並みをそろえ、楽しい気分を発信していくことが大切だと考える。	
A	万博との連携は慎重に考えなければならないように思う。	
B	本事業のKPIは、目標達成ができていますが、阿波おどりはもちろん他の伝統文化の継承事業についても力を注いでいただきたい。また、阿波おどりにについては、夏の4日間に限らず、年間を通して徳島の強みとして生かし活性化に貢献できる事業を計画してほしい。	

デジタル田園都市国家構想交付金事業の事前評価・意見

No.4	事業の名称	2つのX(GX・DX)とイノベーション創出による徳島経済飛躍事業 (県との共同計画)
評価		意見
B	売り上げの拡大等に対する取組補助の効果が見られたが、支援件数が目標にとどかなかった要因をしっかりと検証し、今後につなげて欲しい。	
B	「販路拡大に効果があった」と回答した事業者が100%であることは評価したいが、EC参入支援件数は目標は6割に届いていない。その要因を「広報不足」としているが、推し進めたい支援事業に関しては、プッシュ型の広報ではなく、強い引力をもって「釣り上げてくる」広報手法が必要ではないか。	
B	本事業のKPIは一部目標達成に遅れがみられるものの、概ね順調に推移している。取組別では、取組の補助を受けたすべての業者が「販路拡大に効果があった」と回答しており、有用であると思われる。一方で、支援件数は芳しくなく、要因として広報活動が挙げられている。本事業が広く周知されれば、業種転換の機会提供や、徳島市の企業体力の向上などの効果も想定される。今後人手不足の加速が予想されることから、DXの推進は重要であると考えられる。	
B	2つのKPIのうち、「販路拡大に効果があった」と回答した事業者の割合」は目標を達成しているが、「本事業による支援件数」は目標値に届いていない。ただし、後者は前年度より実績値に進捗がみられることから、B評価とした。なお、後者のKPIが未達成だった原因が、広報活動のあり方以外にないかどうか、検証の余地はあると思われる。	
B	事業者へのデジタル技術を活用した販路開拓支援事業は、多くの事業者が効果があったと回答している。しかし、支援件数については未達成である。今後、効果的な広報を行い、支援事業者を増やしていただきたい。	
B	支援件数が目標の50%程度である。支援を受けた事業者の回答から、効果があることは確実なのであるから、具体的事例(実績)を材料に広報を行い、支援事業者の増加を達成すると良いと考える。	
B	「販路拡大に効果があった」と回答した事業者の割合が伸びていることは、取り組みの成果で出ていて、KPIの達成に有効であったと考えられる。しかし、実際の支援件数が伸び悩んでおり、広報等に課題があるのか、支援の内容や方法に課題があるのか、要因についての検討が必要だと考える。	
C	指導だけでなく、直接的な支援「ハード・ソフト」の補助事業にする必要性を検討すべきである。中小企業の海外進出は、海外市場の動向分析を支援するツールが必要(海外市場も縮小傾向にある)。また為替動向が変化しても安定した収益がでるような仕組みの確立が求められる。	

デジタル田園都市国家構想交付金事業の事前評価・意見

No.5	事業の名称	3つの徳島県・地域連携DMOが協働する観光振興プログラム (県等との共同計画)
評 価		意 見
A	Fun!Fun!とくしまのPビュー数が伸びていることは、大変評価できる。製作した課内の努力が見られ、今後更に魅力のあるP製作に期待する。	
A	観光webサイトのビュー数が目標を大きく上回っていることは評価したい。訪問意向は、まず認知度と情報接触度の向上が入り口となる。「その地域に関心をもって検索する」ためのビュー数が増えていることには期待したいが、「検索」した次の段階として「行動(訪問や購入)」に移す数が増えなければ経済的効果は低い。検索から行動、さらにはその情報を「共有」したくなるようなサイトからの発信やプロモーション活動を期待したい。	
A	本事業のKPIは計画以上の実績値となっている。徳島市公式観光サイトには多くのアクセスがあり、徳島市の観光情報が広く発信されたものと思われる。公式観光サイト内には、徳島の旅スポット・食・イベント情報などが写真・映像で見ることができる。特に若年層は旅行先を選ぶ際に、主に写真や映像情報を活用しており、本事業は、効果的なアプローチであると感じる。	
A	KPIの実績値が目標値に達しておりA評価とした。	
A	徳島市公式観光ウェブサイトのページビュー数が、目標を上回る実績値となり、KPIを達成した。今後は、関西・大阪万博によるインバウンド増加を見据えて、さらなる徳島の魅力発信を行っていただきたい。	
A	目標値を大きく超えている。閲覧者の情報があると更なる事業効果を望めるのではないかと考える。情報発信だけでなく、それに対する反応や閲覧者の要望なども収集・分析することが重要であると考えます。	
A	本事業のKPIは、全体的に目標値を上回って達成できており、取組の成果がでていことが見受けられ、KPI達成に有効であったと言える。取組は全体的に順調に進捗しており、KPIは目標を大きく上回っている。今後はさらに来年の関西大阪万博を意識して、国内および海外からの来訪者に魅力を感じてもらえるようなコンテンツを発信してもらいたい。まだまだ、掘り起しの余地、伸びしろは大きいのではないかと考える。	
A	宿泊者数にどこまでこだわるか、ここは検討すべきである。近県に宿泊し、遊びに来てもらって楽しんで徳島を知って(お金をつかって)もらう設計を考えるべき時期にきている。	

デジタル田園都市国家構想交付金事業の事前評価・意見

No.6	事業の名称	「グリーン社会とくしま」の実現によるサステナブルな地域づくり推進事業 (県等との共同計画)
評 価		意 見
A	積極的な情報発信があったということで功を奏したと思われる。SDGsは世界的に進められている事業でTVや新聞でも取り上げられているので、早期に認知度を上げなければならない。	
A	本事業の実績値は目標を上回って推移している。また各取組においても、目標値以上の実績値となっている。公民連携でのSDGs推進へ向けた活動であり、取組の成果が見受けられKPI達成に有効である。近年、持続可能性への取り組みはますます関心が高まっており、これらの推進は住民の満足度を高めるとともに、観光資源など地域の特色にもなり得る。今後も継続した活動が求められる。	
A	KPIの実績値が目標値に達しておりA評価とした。	
A	これも「息の長い」取り組みが必要であり、だれもが認めざるをえない「SDGs」の考え方の「普及」を推進すること。	
B	「市民のSDG認知度」が向上していることは喜ばしく重要なことではあるが、これが徳島市におけるカーボンニュートラル実現を測る指標とは言い難い。事業者部門、家庭部門、運輸部門等、分野別に脱炭素に向けた目標値の設定が必要だと考える。	
B	市民のSDGs認知度は、目標を超える実績値となりKPIを達成している。さらに、徳島がSDGs先進地域として、まちの魅力や強みとなるように、引き続き情報発信を続けてほしい。	
B	認知度とは具体的に何を指すのか。	
B	本事業のKPIはほぼ達成できているが、SDGs未来都市の具体的なイメージはなかなかつかめない。今後はさらに具体的な青写真を提示して、徳島市が目指すサステナブルな地域の全体像はどういうものなのか情報発信を行っていただきたい。	

デジタル田園都市国家構想交付金事業の事前評価・意見

No.7	事業の名称	社会・経済状況の変化に適応する「とくしま農林水産業」生産力強化戦略 (県等との共同計画)
評 価		意 見
A	目標値に着実に実績が達成されている。毎年成果を上げていくのは大変だと思われるが、しっかりと取り組んで推進してほしい。	
A	商品開発数は目標を達成している。「市場の規格外となった農産物の活用」との表現があるが、サイズや形状によって「規格」を決める現状の改善についても、行政として積極的な関与が必要である。「規格外」という言葉をなくし、再考することが本来のSDGsへの取り組みである。	
A	本事業のKPIは、各年目標達成し順調に推移している。令和5年も事業活用が1件あり、新規商品開発が行われた。県内の1次産業は減少傾向にあるなかで、農林漁業者の6次産業化は付加価値の向上や雇用の創出などの効果が挙げられる。一方で設備投資や専門知識などのハードルもあり、本事業はこの問題に対する有用な支援であるといえる。また産業の活性化は、国内生産量の確保にもつながり、長期的な支援・支援先の拡充が目指されるとよいと考える。	
A	KPIの実績値が目標値に達しておりA評価とした。	
A	本事業のKPIは、目標件数通りの実績を達成している。積極的な広報活動により農産物の製品開発は特に成果があったようだ。今後は、林漁業の商品開発と販路開拓にも力を注いで貢献していただきたい。	
A	目標値を達成している。	
A	今後は「売れ筋商品」に成長しているか、商品の「広告宣伝」の効果を測定することがのぞましい。	
B	本事業の目標のKPIはほぼ達成できており、取り組みの成果が出ていると考えられる。1次産業が強い徳島においては、6次産業化による商品開発や販路開拓支援に対する取り組みは非常に重要な取り組みの1つなので、さらなる取り組みを期待したい。	

デジタル田園都市国家構想交付金事業の事前評価・意見

No.8	事業の名称	LINEによる行政サービス拡張事業
評 価		意 見
A	情報が積極的に配信されており、成果が上がっている。今後もよりよいサービスの改善を図れるよう期待する。	
A	LINE機能の拡張やチャットボットの導入などによる情報発信は、利用者の利便性の向上と計画的な情報発信に寄与している。	
A	本事業のKPIは、目標以上に達成できている。公式アカウントおともだち数も目標を達成しており、セグメントの配信回数においても目標を大きく上回る回数を達成した。チャットボットの利用回数においては、さらに大きな成果となって、市民生活の利便性向上に役立っている。今後さらに利用者も増えるであろうから、市民が必要としている情報の発信に努めていただきたい。	
A	目標値を大きく超えている。市民からの投稿情報は真偽や精度が問題となるが、LINEの双方向性を活かして欲しい。	
A	発信については、非常に活発に行われ、KPIは目標値をはるかに上回るものもみられるので、取り組みは有効なものであったと考えられる。特にチャットボットの利用回数の伸びは素晴らしく、これにより行政の効率化も図られているモノと考える。	
B	本事業のKPIは、運用見送りなどの項目を除き目標を上回っている。特にチャットボットのサービスの利用が大きく伸びており、市民の利便性向上とともに、業務負担縮小にも貢献していると思われる。またLINEという身近なツールでの発信は、非常時においても、広域に迅速な情報提供が可能であるとの利点も挙げられる。	
B	各KPIのうち、実績値が目標値に届いていないものがあり、B評価とした。	
B	申し訳ありませんが「LINE」ユーザーでないので、取得できる評価指標がよくわかりません。取得できるのであれば、「お友達数」より「資料ダウンロード数」(のようなもの)が適切ではないか。	

デジタル田園都市国家構想交付金事業の事前評価・意見

No.9	事業の名称	スマート農業推進支援事業
評価		意見
B		スマート農業への取り組みにおいて目標値を達成できなかった。研修会への参加者は、目標値以下だったが、満足度は目標値を上回ったため、今後は周知に力をいれてほしい。
B		研修会参加者は増えているとのことだが、実際の機器貸出に結び付いていないことが課題である。研修会の開催回数を増やす等の対策が必要ではないか。
B		本事業のKPIは目標値に届かない項目も多くあるものの、前年比で研修参加者が倍増、参加者満足度は目標を上回るなど、スマート農業への理解促進に一定の効果がみられる。スマート農業は、農業従事者の減少や高齢化のなかでも、生産性の高い農業の確立を目指し、国の政策としても推進されている。農林業センサス(2020)によると、徳島における販売農家は2015年→2020年の5年間で△22%と、減少が顕著である。徳島の農業の保持のためにも、より一層の支援強化をお願いしたい。
B		4つのKPIのうち、実績値が目標値に届いたものは1つのみであるが、令和5年度から設定された指標も含まれており、総合的にみてB評価とした。
B		本事業のKPIは、ほとんどの指標において目標が達成できていない。機器の貸し出しにおいても、研修会の参加人数においても、対象者への周知が不足していたようだ。スマート農業推進の支援は、重要な課題だと思うので、多くの農業の方に広報して本事業を利用してもらえるように働きかけていただきたい。
B		広報・研修会の拡充が重要だと考える。
B		農業の担い手不足の解消という意味で大切な事業だと思うが、機器の貸し出し件数が伸び悩んでいるのが残念である。スマート農業機器とは一体どのようなもので、どんなメリットがあるのか、使い方は簡単なのか等々、必要な情報が発信できていないのではないかと。既存の農家だけでなく、都会からの新規就農希望者などにも積極的にイベント等の情報を発信すればよいのではないかと。
B		今後、機器の貸出状況、その機器を利用した作物の種類増加、品質の向上などを成果としてモニターするのがのぞましい。